

恩師のいま



亀井 哲夫 先生

KAMEI TETSUO

大手前中・高等学校
1973年4月1日～2010年3月31日

追手門を退職して十数年、自由気ままに今迄発表してきた魚類関係の論文やエッセーを本にまとめようとしてきましたが、今年になって魚類仲間の先生から大阪動植物海洋専門学校での学校改革に来てくれないかと請われ、引き受けました。

以前から動物を使ったアニマルセラピーに関心があり、犬や馬だけでなくフェレット等の小動物やハ虫類、昆虫も扱っていて面白そうだと思ったからです。

専門学校で飼育する色々な生き物を通して、老人・障害者・子供たちに自然や生物多様性などに関心をもってもらおうと共に、セラピー効果を期待しています。

また四月から実習場で1000尾のウナギ養殖がスタートしました。私が研究しているアオウナギの養殖にチャレンジしています。

山桜会や大学校友会の方々に改革のアドバイスや人材の紹介、就職等で今も大変御世話になり、追手門のすこさに感謝しています。



森 義和 先生

MORI YOSHIKAZU

小学校
1975年4月1日～2009年3月31日

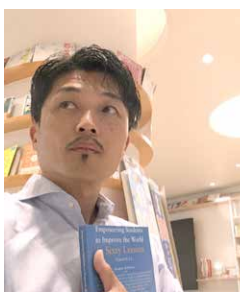
低学年担任の時にルービックキューブが日本で流行りました。林裕悟君は簡単に6面を揃えました。大人でも難しいことをやり遂げたので大変な驚きでした。そのような副会長の林氏から近況報告の依頼があり寄稿しました。

教頭・園長を勤め、退職後すぐに海外の英語学校に入学しホームステイをして学びました。その後7カ国のホームステイ受け入れや皆既日食観測を兼ねた世界一周旅行、卒業生職場訪問や海外在住の卒業生訪問激励をしました。

大阪の山中伸弥氏がIPS細胞でノーベル賞を受賞した時は、嬉しくてすぐにストックホルムの市庁舎・ノーベル博物館を訪れました。その他、東日本鈍行列車一周や四国八十八ヶ所お遍路や西国33ヶ所観音巡礼もしました。

コロナ禍では、家の木を切りペーパーナイフや木馬等を作り、驚くほど多種多様な器具のあるコーナンプロによく通っています。

先生は、古希で隠居暮らしを楽しみます。それでは、皆様のご活躍をお祈りしています。



田橋 知直 先生

TAHASHI TOMONAO

中・高等学校[茨木]
2000年4月1日～現在

気づけば追手門一筋22年。変化の加速度が増し、予測困難な世の中の流れに取り残されそうになりながらも、自分なりに新しい取り組みをしています。コロナ禍直前の2年間は、夏休みを利用して海外の学校で授業実践をしてきました。フィリピンではシティズンシップ教育、ルワンダでは平和教育。そこで出会ったステキな生徒たちと日本の学生をつなげる誓いを立てました。色々なことをコロナ禍のせいにするのは嫌なので、無理やりにでもオンラインに可能性を見出し、結果日本にいなから海外とつながる、「本当の意味でのグローバル」の可能性に今は夢中です。オンラインの力を借りれば、大阪にいなから海外の学校で授業をしたり、海外の生徒たちと追手門のステキな生徒たちをつながれることに気がつき、ここ2年でインド、マレーシア、アメリカ、台湾、オランダ、韓国の学校と追手門の教室をつないできました。どこか国際教育を海外研修や留学に頼ってきたこれまでとは決別ができそうです。

振り返ると、若い頃からたくさんの失敗をしてきました。生徒を傷つけたらうらやま、保護者の方に不信を抱かせることもたくさんありました。様々な出会いがあり、巣立ちを見送ってきました。その度に、僕とかかわってくれた人たちがそのかわりを誇れるような人間になることを誓い、自分をアップデートしてきました。私がこれまで追手門で学んだこと、それはやはり、「人とかかわり」だということに、筆を進めている中で気がつきました。追手門でのこれまでのすべての出会いに感謝します。